

藩翰譜

十上下

伊地知文庫

文庫20

382

13



文庫20

382

13

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry, written on a page marked with a large 'X' in the top right corner.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page, written on a page marked with a large 'X' in the top right corner.

Handwritten text in cursive script, likely a list or account. The text is written vertically from right to left. It includes several lines of text, some of which appear to be names or titles, possibly related to a historical or administrative record. The script is dense and characteristic of Edo-period Japanese calligraphy.

取次

Handwritten text in cursive script, continuing the list or account from the previous page. The text is written vertically from right to left. It includes several lines of text, some of which appear to be names or titles, possibly related to a historical or administrative record. The script is dense and characteristic of Edo-period Japanese calligraphy.

徳川より一船揚一十月十日の夜に海軍の船が来りて

統制使之揚来りて海軍の船が来りて

船 （其の年々海軍の船が来りて） 船が来りて

七の日の十の夜に海軍の船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

船が来りて

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is dense and fills most of the page.

後醍醐天皇...
徳宗...
建永十七年二月十日大抵...
建永十八年十月...
建永十七年...
建永十八年...
建永十九年...
建永二十年...
建永二十一年...
建永二十二年...
建永二十三年...
建永二十四年...
建永二十五年...
建永二十六年...
建永二十七年...
建永二十八年...
建永二十九年...
建永三十年...

建永二十一年三月...
建永二十二年...
建永二十三年...
建永二十四年...
建永二十五年...
建永二十六年...
建永二十七年...
建永二十八年...
建永二十九年...
建永三十年...

寛文八年三月九日の事なりて是すし
吉平又の儀と云ふ事なるは近頃
同二年三月十日の事なりて是す
禮と云ふ事あり有馬守備の事なり
中左衛門の事なり
有馬守備の事なり
吉平又の儀と云ふ事なるは近頃
同二年三月十日の事なりて是す
禮と云ふ事あり有馬守備の事なり
中左衛門の事なり
有馬守備の事なり
吉平又の儀と云ふ事なるは近頃
同二年三月十日の事なりて是す
禮と云ふ事あり有馬守備の事なり
中左衛門の事なり
有馬守備の事なり

此の事なり
大正の事なり
中左衛門の事なり
吉平又の儀と云ふ事なるは近頃
同二年三月十日の事なりて是す
禮と云ふ事あり有馬守備の事なり
中左衛門の事なり
有馬守備の事なり
吉平又の儀と云ふ事なるは近頃
同二年三月十日の事なりて是す
禮と云ふ事あり有馬守備の事なり
中左衛門の事なり
有馬守備の事なり

三井田目といふところへては仕事うとほひのりかへ入ん
 りかへるはむつやむつやのりかへるはむつやのりかへるは
 ちかへるはむつやむつやのりかへるはむつやのりかへるは
 ちかへるはむつやむつやのりかへるはむつやのりかへるは
 りかへるはむつやむつやのりかへるはむつやのりかへるは
 のりかへるはむつやむつやのりかへるはむつやのりかへるは
 りかへるはむつやむつやのりかへるはむつやのりかへるは
 りかへるはむつやむつやのりかへるはむつやのりかへるは
 十九日ニ幸すまきつとよきつとよきつとよきつとよきつ
 舞しつ大馬ちのりかへるはむつやのりかへるは
 三井田目といふところへては仕事うとほひのりかへ入ん

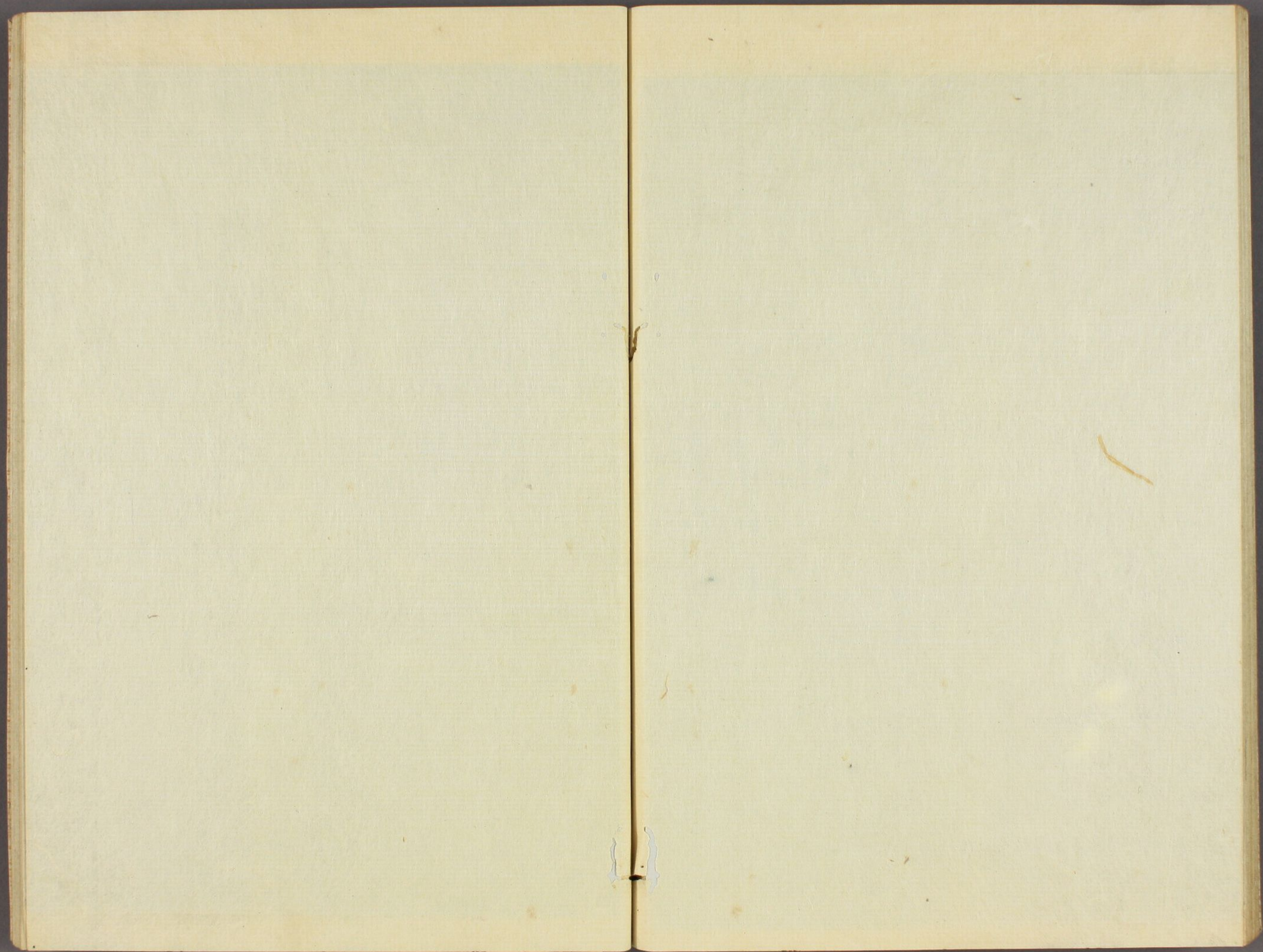
加藤

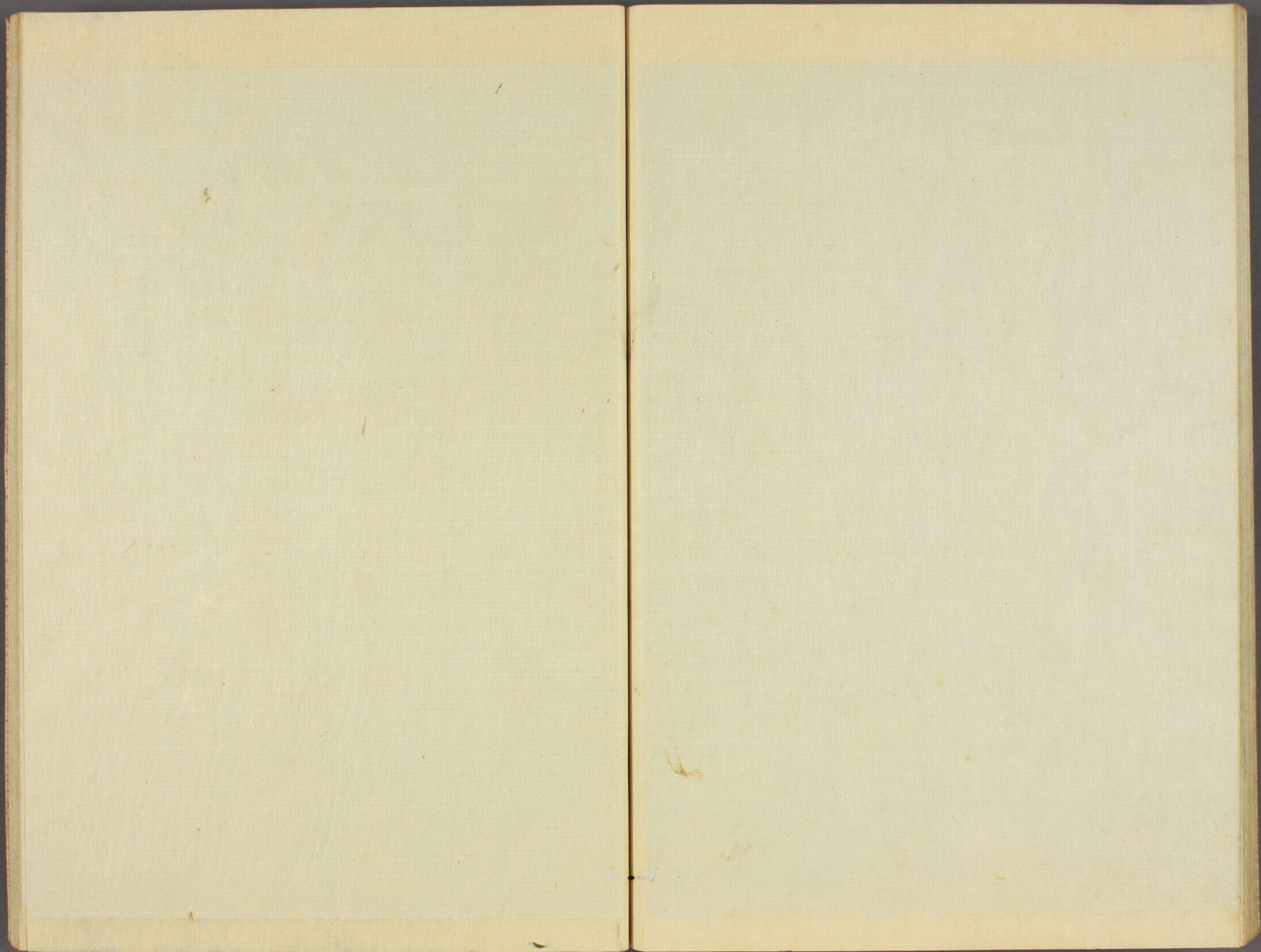
大馬ちのりかへるはむつやのりかへるは
 惟だえなもえ羊のまきつとよきつとよきつとよきつ
 虎吉のいふは尾のりかへるはむつやのりかへるは
 言しつこの物つ目かへるはむつやのりかへるは
 かくむつやのりかへるはむつやのりかへるは
 此回すむつやのりかへるはむつやのりかへるは
 他いふはむつやのりかへるはむつやのりかへるは
 いふはむつやのりかへるはむつやのりかへるは
 又はむつやのりかへるはむつやのりかへるは
 三井田目といふところへては仕事うとほひのりかへ入ん

毎年のことごとくは、
刊行大略のには、
と、
多、
考、
る、
父、

右、
又、
他、
能、
後、

入、
た、
の、
百、
の、





鎌田

十三下

市首大官平信正入道常直其子有長信長其子有初
 信忠の國目也富澤平朝之具教卿の地田在年乃行統
 朝臣の世法とりの鎌田及の斗のやと母教卿と討まも
 信正朝臣と押也の山田の二後悉く去て了一信國と
 順一松原の地も信一山田朝臣とを中らる

 山田及の斗のやと母教卿の地田在年乃行統
 信忠の國目也富澤平朝之具教卿の地田在年乃行統
 朝臣の世法とりの鎌田及の斗のやと母教卿と討まも
 信正朝臣と押也の山田の二後悉く去て了一信國と
 順一松原の地も信一山田朝臣とを中らる
 山田及の斗のやと母教卿の地田在年乃行統
 信忠の國目也富澤平朝之具教卿の地田在年乃行統
 朝臣の世法とりの鎌田及の斗のやと母教卿と討まも
 信正朝臣と押也の山田の二後悉く去て了一信國と
 順一松原の地も信一山田朝臣とを中らる

と願ひ奉る事こそ御得の又我信能と奉て相問ひ
生れつる月の昔より信じてと見えの意ある事なす
るふと父兄の教育の傳へし一切の事とて夫の事業の
少く神聖とて一とてまゐる傳へし御入の事なす
まじりてとてと奉る事とてこれとてあれし事なす
傳へしとてこの事なすとてこれとてこれとてこれ
よとてこれとてこれとてこれとてこれとてこれと
羽田園とてこれとて信能とてこれとてこれとて
信能の故郷の位嗣とてこれとてこれとてこれと
よとてこれとてこれとてこれとてこれとてこれと
月一信能の事なすとてこれとてこれとてこれと
実一ぬ事なすとて信能此の事なすとてこれとて

者なすとて^{信能の事なす}人の心なすとてこれとて
これとてこれとてこれとてこれとてこれとてこれと
とてこれとてこれとてこれとてこれとてこれと
めとてこれとてこれとてこれとてこれとてこれと
さく此の事なすとてこれとてこれとてこれと
御川及信能とてこれとてこれとてこれとてこれと
香美の事なすとてこれとてこれとてこれとてこれと
事なすとてこれとてこれとてこれとてこれと
信能とてこれとてこれとてこれとてこれと
上月十日十事りの人なす事なすとてこれと
園日とてこれとて信能とてこれとてこれと
信能とてこれとて信能とてこれとてこれと

平信俊の二兄の事。寛弘三年八月十八日。平信俊の弟。山崎守也。

信俊の父の由緒。寛弘三年十月廿七日。信俊の父の

事。寛弘三年十月廿七日。信俊の父の

○大弟。平信俊の常真の兄。信俊の兄の事。寛弘三年

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

○平信俊。平長益の兄。信俊の父の事。寛弘三年

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

九月廿七日。信俊の父の事。寛弘三年十月廿七日

建部

丹波守海部長内通元々子毒徳入る孫入會を
 其近江の者や多原守の流着ありし時足助教計々
 于半其は守たりし後國なるは任りし五三作百此等其長
 岡の事なるも其後國の政勢とすなり小原の元は信元
 子母は其後國の事とすなり一と其後國の事有其後國と
 入道なり其後國の事とすなり一と其後國の事有其後國と
 せり其後國の事とすなり一と其後國の事有其後國と
 又ゆり其後國の事とすなり一と其後國の事有其後國と
 毛利其後國の事とすなり一と其後國の事有其後國と
 の國なるも其後國の事とすなり一と其後國の事有其後國と
 又其後國の事とすなり一と其後國の事有其後國と

二の成不責のくれば故き陣川の如くしてよきの軍一少
 他凡天のありくは徳川の如くは仰りては干瀆と回るゝ
 及らん元正初代は軍にさき光りしは其他の
 輝政のまはれは輝政の軍にさきしは其の慶長十二年九月廿日
輝政のまはれは輝政の軍にさきしは其の

徳川家 七年二条のくは死 同日五年五月廿日内訌以て
 辛三三のまはりて辛八 細川に依り法ある 韓力もあし
 事と傳はくは南村の如くは名を傳へりては光りては事
 且豊盛の八女と仰りては元祖の如くは伝はるゝと
 輝政初は物きしと仰りては元祖の如くは伝はるゝと
 事と仰りては南村の如くは名を傳へりては光りては事
 政者かしの大坂の軍起りし時 政長生年十才 園東の
 味方として大坂の陣はなすらん 干瀆と回るゝと
 事と仰りては南村の如くは名を傳へりては光りては事

付傳へるゝと仰りては南村の如くは名を傳へりては光りては事
 かきも利権なき事もあらず。如きとよしは其の如く
 人能くして彼如くは事しるゝ。徳川將士の軍起
 物加りて大坂の軍起りし時 政長生年十才 園東の
 味方として大坂の陣はなすらん 干瀆と回るゝと
 事と仰りては南村の如くは名を傳へりては光りては事
 且豊盛の八女と仰りては元祖の如くは伝はるゝと
 輝政初は物きしと仰りては元祖の如くは伝はるゝと
 事と仰りては南村の如くは名を傳へりては光りては事
 政者かしの大坂の軍起りし時 政長生年十才 園東の
 味方として大坂の陣はなすらん 干瀆と回るゝと
 事と仰りては南村の如くは名を傳へりては光りては事

戸籍簿の世帯ごとありし七百餘人となり集り一廣修の地と
 又元元是ともあり。寛文元年十月廿八日叙爵し丹波守
 又任し七年改任入軍しと自得し早もて此男改任又
 二年十一月廿二日叙爵しと丹波守に任し一月九年
 十月廿三日二年二月廿七日と任し冬も改任ありと任し
 十月廿八日叙爵しと内通に任し十月廿二年四月廿九日
 改任入道自得し七年十月廿二日と任し

斤桐

出書者原教利始名市心員始名男始名六孫五郎基北
 此子少壯者備後朝臣の男原信隆也為么信隆も侍者
 の部も任し為么三男弟入妻も為基初し斤桐と名あり
原八と云元相と云年
何れも元相と云年 為基十代のは流為親御生年十七年
 在末と云く道にありて為親も為親も為親も為親も
 貞徳將軍の侍り別名美田て終身名の此年一元年
四年十月廿七日と任し廣修有りと云 是市心員也
 之信正員傳り又此より長也との物伝もつて書長基
 又是道にありし廣修の合衆する名七人の子ありて親也
 千和の事も付年一夫一子一年七月初知く市心員也と
 流の事も千和の流下市心員もなきは書長基の姓と流の
 市心員也とありし横舟書長基
百三十四年の事 夫亦親の此書とて千和の

多難のしるし國をよみし色にほくお国お家の世と
 鴉の籠を水四年辛酉やうく二年八鳩の在り
 百度窮二回也神業碎又。百度もあつた百度。
 りとつたひひ屋又。はくは富二年十月十日。叙
 す

書年小

西の書母信しるし刑の御法不備書。姑のてりし
 え他と卒くふ家化天皇三代の名は多任比古のひ子
 たは百任多任比古人の姓と信の其はみお信のしゆきり
 けりてはくはくはまはし名をとりり

 千五百國のいんぎ化天皇の三代の御法
 なる百の家母信の御いんぎ化天皇
 信りてはくはくはまはし名をとりり
 又あつたはくはまはし名をとりり
 母の世の日記

 中化天皇御法不備書はくはまはし名をとりり
 千五百國のいんぎ化天皇の三代の御法
 なる百の家母信の御いんぎ化天皇
 信りてはくはくはまはし名をとりり
 又あつたはくはまはし名をとりり
 母の世の日記

Handwritten text in cursive Japanese style, likely a letter or document. The text is written vertically from right to left.

御書

Main body of handwritten text in cursive Japanese style, continuing from the right page. The text is written vertically from right to left.

蘭文の書札の一通。宛先は「Mr. J. B. Smith」とあり、手紙の内容は、
「Dear Sir, I have the pleasure to inform you that your order for
the books is now ready for shipment. The books will be sent to you
by the next steamer. I am sure you will be satisfied with the
quality of the books. I am, Sir, very respectfully,
Your obedient servant,
J. B. Smith
London, England」

三友堂

